

令和6年度「全国学力・学習状況調査」「とちぎっ子学習状況調査」の結果について（概要）

宇都宮市教育委員会

1 教科に関する調査の結果について

<全体的な状況>

概ね、各学年、各教科において国や県の平均正答率を上回っている。

特に、全国学力・学習状況調査では、小6国語、中3国語・数学、とちぎっ子学習状況調査では、小5理科、中2社会・数学・理科・英語において、国や県の平均正答率を1.5ポイント以上上回るなど、良好な状況が見られる。

一方で、とちぎっ子学習状況調査では、小4国語・算数において、県の平均正答率を下回っている。

<小学校 学年別・教科別の平均正答率の状況>

調査・学年	教科	平均正答率の状況（％）		
		宇都宮市	国または県（＊）	市－国または県（＊）
全国学力・学習状況調査 小6	国語	69.3	67.7	1.6
	算数	63.6	63.4	0.2
とちぎっ子学習状況調査 小5	国語	64.4	63.4	1.0
	算数	53.7	52.9	0.8
	理科	61.4	59.8	1.6
とちぎっ子学習状況調査 小4	国語	64.7	66.0	△1.3
	算数	50.0	50.2	△0.2
	理科	73.7	72.8	0.9

<中学校 学年別・教科別の平均正答率の状況>

調査・学年	教科	平均正答率の状況（％）		
		宇都宮市	国または県（＊）	市－国または県（＊）
全国学力・学習状況調査 中3	国語	59.6	58.1	1.5
	数学	54.8	52.5	2.3
とちぎっ子学習状況調査 中2	国語	60.3	59.6	0.7
	社会	48.5	45.8	2.7
	数学	52.4	50.5	1.9
	理科	56.9	55.5	1.4
	英語	49.0	45.6	3.4

（＊） 小4・小5・中2においては、県の平均正答率との差を示しています。

小6・中3においては、全国の平均正答率との差を示しています。

＜小学校（小4，小5，小6） 良好な状況や課題が見られる領域等について＞ ○ 良好な状況 ● 課題

国語	○ 「読むこと」の領域の平均正答率が，小5では県平均を1.3P，小6では全国平均を2.2P上回り，良好な状況が見られる。中でも，物語文の人物像を具体的に想像する設問において，小6では全国平均を2.7P上回っており，叙述を基に内容を捉えることについて定着が図られている。 ● 「書くこと」の領域において，小4，小5，小6とも，資料から読み取ったことを基に自分の考えを明確にして書くことに課題が見られる。
算数	○ 「数と計算」の領域の平均正答率が，小5では県平均を1.2P，小6では全国平均を0.7P上回り，良好な状況が見られる。中でも，積の求め方と答えを書く設問において，小6では全国平均を4.1P上回っており，計算に関して成り立つ性質を活用して計算の仕方を考察することについて定着が図られている。 ● 「図形」領域において，小4，小5，小6とも，図形を構成する要素や性質を利用して作図をしたり，他の図形に活用して考察したりすることに課題が見られる。
理科	○ 「地球」を柱とする領域の平均正答率が，小4，小5では県平均をそれぞれ1.5P，2.6P上回り，良好な状況が見られる。中でも，温度計を使って正しい気温の測り方を選択する設問において，小5では県平均を6.7P上回っており，観測器具の正しい使い方について定着が図られている。

＜中学校（中2，中3） 良好な状況や課題が見られる領域等について＞ ○ 良好な状況 ● 課題

国語	○ 「読むこと」の領域の平均正答率が，中2では県平均を1.7P，中3では全国平均を1.8P上回り，良好な状況が見られる。中でも，物語文や短歌について，描写を基に内容を捉える設問において，中2では県平均を2.4P，中3では全国平均を3.4P上回っており，叙述を基に人物の心情や情景などを捉えることについて定着が図られている。 ● 「書くこと」の領域において，中2では，自分の主張が伝わるように，事実や事柄などの根拠に基づきながら，自分の考えを明確にして書くことに課題が見られる。
社会	○ 「歴史的分野」の領域の平均正答率が，中2では県平均を3.0P上回り，良好な状況が見られる。中でも，写真資料から弥生時代のムラの様子の特徴を読み取り記述する設問において，県平均を5.9P上回っており，資料を活用しながら，各時代の特色を捉えるなど，社会的事象等について調べまとめる技能の定着が図られている。
数学	○ 「数と式」の領域の平均正答率が，中2では県平均を2.7P，中3では全国平均を3.1P上回り，良好な状況が見られる。中でも，連続する二つの偶数を，文字を用いた式で表す設問において，中3では全国平均を7.9P上回っており，事象における数量やその関係を，文字を用いた式で表すことについて良好な状況が見られる。 ● 「関数」の領域において，中3では，事象を数学的に解釈し，グラフや式を用いて問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。
理科	○ 「生命」の領域の平均正答率が，中2では県平均を2.3P上回り，良好な状況が見られる。中でも，植物の葉に着目し，分類を選択して，分類した理由も答える設問において，県平均を4.9P上回っており，既存の知識を生かしながら，観察結果から考察することについて定着が図られている。
英語	○ 「聞くこと」の領域の平均正答率が，中2では県平均を2.4P上回り，良好な状況が見られる。中でも，英語を聞き，内容を適切に表している絵を選択する設問において，中2では県平均を3.9P上回っており，英語の内容を正確に聞き取ることに定着が図られている。

* 「ポイント」を「P」と表記する。

2 児童生徒質問調査（アンケート）の結果について

それぞれの質問に対する本市児童生徒の肯定的な回答の割合を示しています。
() 内の数値は、小6・中3においては全国平均との差、小4・小5・中2においては県平均との差を示しています。

○ 児童生徒は、主体的によりよい学級づくりに参画している。

「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めている」(全国学力)

小6 88.1% (+3.9P) 中3 85.2% (+4.6P)

「学級活動における学級の話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」(全国学力)

小6 85.4% (+2.9P) 中3 93.7% (+2.0P)

○ 教職員や家族に自分のよさを認められていると感じており、自己肯定感が高い。

「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」(全国学力)

小6 94.3% (+4.4P) 中3 95.1% (+4.7P)

「先生は、学習のことについてほめてくれる」(とちぎっ子)

小4 89.5% (+1.1P) 小5 90.9% (+1.6P) 中2 83.6% (+1.2P)

「家の人は、ほめてもらいたいことをほめてくれる」(とちぎっ子)

小4 88.4% (+1.6P) 小5 89.3% (+2.0P) 中2 80.1% (+0.7P)

○ 地域や社会についての関心をもっている児童生徒の割合が高い。

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」(全国学力)

小6 86.1% (+2.6P) 中3 82.6% (+6.5P)

「地域や社会で起きている問題やできごとに関心がある」(とちぎっ子)

小4 75.8% (+1.1P) 小5 75.7% (+1.1P) 中2 67.5% (+0.4P)

○ 夢や目標について考えている児童生徒の割合は、国や県との差において、小・中学校とも学年が上がるにしたがって高くなる。

「将来の夢や目標をもっている」(全国学力・とちぎっ子)

小4 91.3% (+0.2P) 小5 90.1% (+1.1P) 小6 85.4% (+3.0P)

中2 70.6% (+0.8P) 中3 70.5% (+4.2P)

「家の人と将来のことについて話すことがある」(とちぎっ子)

小4 70.5% (+1.7P) 小5 70.6% (+3.5P) 中2 70.2% (+3.7P)

● 自分の考えを文章にまとめて書く学習に、苦手意識がある。

「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しくない」(とちぎっ子)

小4 33.4% (−1.9P) 小5 34.5% (−1.7P) 中2 32.0% (−2.0P)

※ 令和5年度 小4 34.7% (−2.5P) 小5 37.1% (−2.6P) 中2 33.8% (−2.1P)



* 「ポイント」を「P」と表記する。

3 学校質問調査（アンケート）の結果について

それぞれの質問に対する本市立学校の肯定的な回答の割合を示しています。
() 内の数値は、「全国学力・学習状況調査」の質問については全国平均との差、
「とちぎっ子学習状況調査」の質問については県平均との差を示しています。

○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が進められている。

「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」（全国学力）

小学校 88.4% (+2.7 P) 中学校 80.0% (+1.4 P)

「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている」（とちぎっ子）

小学校 92.8% (+4.6 P) 中学校 88.0% (+5.8 P)

○ 小・中学校が連携して行う取組が、全国と比べてよく行われている。

「近隣等の中（小）学校と、教育課程に関する共通の取組を行った」（全国学力）

小学校 81.1% (+17.1 P) 中学校 92.0% (+23.0 P)

○ 保護者や地域と連携・協働する取組が、よく行われている。

「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった」（全国学力）

小学校 92.7% (+3.8 P) 中学校 92.0% (+7.9 P)

● 学力調査問題の有効な活用が求められる。

「学力調査後、調査対象学年の児童生徒に対して、調査問題を解かせることで、課題の改善状況を確認している」（とちぎっ子）

小学校 92.8% (+0.2 P) 中学校 36.0% (−30.9 P)

「学力調査後、調査対象学年の1学年下の児童生徒に対して、調査問題を解かせることで、習得状況を確認している」（とちぎっ子）

小学校 76.8% (−1.2 P) 中学校 40.0% (−26.2 P)

「児童生徒に身に付けさせたい力の確認等のために、教員自ら調査問題を解いている」（とちぎっ子）

小学校 88.4% (−7.1 P) 中学校 80.0% (−12.4 P)

● 中学校において、学校内での共通理解をより深めることが求められる。

「小集団で授業研究を行うなど、組織的に授業づくりに取り組んでいる」（とちぎっ子）

小学校 98.6% (+2.4 P) 中学校 75.2% (−15.2 P)

「授業研究を伴う校内研修の回数（年間4回以上）」（とちぎっ子）

小学校 88.4% (+13.4 P) 中学校 20.0% (−31.5 P)

「調査結果の分析を全教職員で行っている」（とちぎっ子）

小学校 100% (+1.8 P) 中学校 72.0% (−15.9 P)

4 児童生徒質問調査（アンケート）と教科の正答率のクロス集計結果について

ー 学力との相関が高い質問についての考察 ー

本市におけるアンケートの結果のうち、正答率が高い児童生徒の方が、正答率が低い児童生徒と比べて肯定的に回答している傾向が見られた項目について分析し、学力に影響すると考えられる児童生徒の取組をまとめました。

正答率が高い児童生徒は、次のことによく取り組んでいる傾向が見られる。

- ・ 疑問に思ったことを追究しようとする意欲をもち、主体的に学習に取り組んでいる。
- ・ 話し合いや発表活動を通して、考えを深めたり、自分の考えを工夫して伝えたりしている。
- ・ 教科等の見方・考え方を働かせながら、習得・活用・探究の学習活動に取り組んでいる。
- ・ 自身の学習状況を客観視し、課題や改善点を把握することで、次の学習につなげている。
- ・ 規則正しい生活や学習を計画的に進めるなど、適切な自己管理に努めている。

5 全体のまとめ

<まとめ>

教科に関する調査結果について

概ね、各学年、各教科において全国及び県の平均を上回っており、良好な結果が見られた。各教科等における基礎的事項の理解や、資料から必要な情報を読み取り、内容を把握する技能など、基本的な知識・技能について定着しつつあると考えられる。

質問調査（アンケート）について

書くことへの意識や調査問題の活用において、肯定的な回答割合が県の平均を下回るなど、一部に課題も見られたが、学習指導要領の具現化に向けた授業改善の取組、小・中学校や地域との連携に係る取組を中心に全国及び県の平均を上回っており、概ね良好な結果が見られた。

<良好な結果の要因と考えられること>

- ・ 各学校において児童生徒を認め励ます指導が浸透し、児童生徒は自分のよさに自信をもって学習や生活に臨むことができおり、そのことが落ち着いた授業態度につながっている。
- ・ 各学校において、課題設定を工夫したり、課題解決に向けた話し合い活動を積極的に取り入れたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が進められている。
- ・ 地域学校園において、小・中学校が連携した取組が定着しており、教育課程に関する共通の取組や小中での合同研修の機会を確保するなど、小・中学校で系統性のある指導の実践ができている。

<今回の結果から見えてきた課題>

- ・ 資料や事柄に基づいて、必要な情報を取り出すことや情報と情報の関連付けなどをしながら、自分の考えや判断の理由を、目的や意図に応じて、書き表したり説明したりすることなどに課題が見られるため、各教科等の目標と指導事項との関連及び、児童生徒の発達の段階や言語能力を踏まえて言語活動を充実させるなど、指導方法の工夫改善が必要である。
- ・ 自分の考えを文章にまとめて書くことについて課題が見られるため、文章の構成や書く内容を意識させながら、段階的に書く活動を取り入れるなど、自分の考えが伝わるような文章を書く力が身に付くよう指導方法の工夫が必要である。また、基礎期からの書くことの指導について、発達の段階や各校の実態に応じて指導方法を工夫・改善するなど、計画的・継続的な指導が求められる。

6 今後の取組

＜市教委＞

＜学校＞

市の強みとして更に伸ばしたいところ

- 本市児童生徒のほとんどが「教職員や家族に自分のよさを認められている」と感じていることを本市学校教育の大きな成果と捉え、児童生徒の自信や自己肯定感を一層育むため、「宮っ子心の教育表彰」など、認め励ます教育を引き続き推進する。
- 児童生徒一人一人の資質・能力の向上のために、基礎期からのきめ細かな学習指導を推進するとともに、デジタル機器の効果的な活用による「リアル」と「デジタル」のベストミックスされた学習活動の充実など、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をより一層推進する。
- 各教科等の「小中一貫教育カリキュラム」の地域学校園化・自校化を推進し、本市の4（基礎期）・3（活用期）・2（応用期）の各期のまとまりを生かした指導の一層の充実を図る。

認め
励ます
教育の推進

「主体的・
対話的で
深い学び」
への授業改善

9年間の
系統性
ある指導

- 確かな児童生徒理解の下、日々の学習や生活における児童生徒への積極的な声掛けや機会を捉えた称賛などにより、児童生徒のよさや努力を認め励ますとともに、児童生徒同士がかかわり合い、互いのよさに気付ける活動を引き続き推進する。
- 「宇都宮モデル」を活用し、児童生徒が意欲的に学習に取り組み、資質・能力を高めることができるよう、課題の設定、発問や問いかけ等を工夫しながら、児童生徒が意見を交流し学び合う学習活動を展開するとともに、発達の段階に応じてデジタル機器の活用方法を工夫する。
- 小・中学校共通の重点目標や具体策を検討し、各教科等のカリキュラムの地域学校園化や共通実践に取り組むとともに、各期の児童生徒の学習状況を確認し、その後の指導に生かすことで、更なる指導改善を図る。

今後改善したいところ

- 市定着度調査を含む3つの調査の一体的な分析により、本市の学力向上に係る取組の改善に向けてPDCAサイクルを回すとともに、各学校の実態を踏まえて学習指導上の課題について十分に把握する。
- 学校訪問において、学力調査の結果分析に基づく各学校の学習指導上の課題に応じて適切に指導助言することができるよう取組の充実を図る。また、市内小中学校における優れた実践例を、「学びのデザインチームだより」において紹介し、校内研修等での活用を促進する。
- 自分の考えをまとめ、書く力を育成するため、各教科の特質に応じた言語活動を充実させることや系統的な指導を実施することを踏まえながら、自分の考えをまとめ書く力を育成する指導のポイントについて、センター研修や学校訪問の機会を捉えて、指導助言を行う。

学力調査
の
活
用

校内研修
の
充
実

書く力
の
育
成

- 国、県、市の調査問題及び調査結果を分析して児童生徒の状況や学習指導上の成果と課題を適切に把握し、課題解決に向けて、指導計画や授業の改善に、組織的に取り組むことにより、学力の向上を図る。
- 課題解決のための具体策を校内で共有するとともに、授業研究等において、参加者が共通の課題認識に基づいて意見交換を行うことにより、授業改善及び授業力向上を図る。
- 国語科を中心として、全教科等で書く力を育成していけるよう、言語活動の充実を図るとともに、「書くこと」に対しての苦手意識を軽減させるため、基礎期から、各活動を取り入れ、発達の段階に応じて書く機会の充実を図る。